



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年9月10(日) 9:30~12:00(曇)

参加者 一般:4名(うち子ども2名)

指導員:8名

テーマ 「秋の花を観察しよう」

暑さが和らぎ、蝉の声も静かになって、秋の草花が目立ってきました。この辺りで多く見られるキク科やマメ科の花と、秋の七草に注目して回りました。

歩き始めてすぐに出会ったのが隣り合って咲くヤマハギとアレチ又スギトハギでした。色も形もよく似た蝶形の花と、三出複葉を見比べてみました。堤防道路の脇にはずっと小さな花のメドハギとヤハズノウが咲き、少し先では大きな花のクズが芳香を漂わせていました。モクバラの森では、又スビトハギの小さな花と、それを巨大にしたようなフジカンソウが花をつけていました。フジカンソウはこの辺りで見かけない植物で、知り合いの公園管理の職員にどうしてここに生えているか聞いてみましたが、分かりませんでした。



(この辺りでは見かけないフジカンゾウの花)

一方、キク科では、クワイモの花のほかはブタクサ、オオブタクサ、ヒメムカシヨモギなど地味な花が目立ちません。ヒメムカシヨモギとオオアレチノギクの違いを見たいという声があり、オオアレチノギクを探しましたが、ここではごくわずかしかなかった。両方の花や葉、特に葉の縁に生えた長い毛の状態を比べて、両者の違いを確認しました。

堤防法面にはセンニンソウが咲き、花の白さが際立っていました。また、大野極楽寺公園ではすでに赤や白のヒガンバナが咲いていました。彼岸の頃に咲くので名付けられた花ですが、ここでは随分と早い開花です。

なお、この日見られた秋の七草は、ハギ、クズ、最後に花壇で見かけたオミナエシを加えた3種でした。(報告:齋竹)



(目立たないメドハギの花)



(よく目立つセンニンソウの花)



(観察会のようす)

<観察できたもの>

花: マメ科7種 [ヤマハギ、アレチ又スビトハギ、メドハギ、ヤハズノウ、クズ、フジカンソウ、シロツメクサ]、キク科12種 [クワイモ、ブタクサ、オオブタクサ、ヒメジョオン、ブタナ、セイヨウタンポポ、コウゾリナ、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、アメリカタカサプロウ、コセンダングサ]、メリケンムグラ、オオフタバムグラ、オオニシキソウ、センニンソウ、キツネノマゴ、イタドリ、ガガイモ、ミソハギ、マメアサガオ、ヒガンバナ、ヘクソカズラ、オニドコロ、ミスヒキ、イヌタデ、アレチマツヨイグサ、コマツヨイグサ、アレチハナガサ、ヒメクマツツラ、ヤブラン、ニラ、ツククサ、ムラサキサギゴケ、オミナエシ、虫: ツクツクボウシ(声)、アブラゼミ、キタキチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、キンケハラナカツチバチ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、オオヤマトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、ナミテントウ、オジロアシナガゾウムシ、キボシカミキリ、マルカメムシ、ホシハラヒロヘリカメムシ、アオバゴロモ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、マダラバッタ、クルマバッタモドキ、ハネナガイナゴ(又はコバネイナゴの長翅型)、エンマコオロギ、アオマツムシ(声)、カネタタキ(声)、カンタン(声)、鳥: キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、エナガ、モズ、カワセミ、スズメ、ハシボソガラス